



若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

「邑楽町の昔ばなし」より

邑楽町の地名あれこれ②



ローマ字表記がない場合、訪れた人は何と読むでしょうか
「水立」は邑楽町の中でも代表的な難読地名です

水立（やけだち）

そもそも、邑楽町には難読・難解の地名が多いので、他所から来た人を困らせます。

例えば、狸塚と書いて「むじなづか」と読ませ、大根村と書いて「だいこんむら」と称します。

さて、水立も同様です。どうしても、これを「やけだち」とは読めません。

なぜ、水立を「やけだち」というのだろう。そこには先人たちの、火に対する恐ろしい思いが秘められているのです。

昔むかし、この辺り一帯に大火事があり、家屋はもちろん山林も丸焼けになってしまったそうです。

そこで、考えたのは火事に打ち勝つには水です。「水の力で立ち上がろう」とばかり、従来の「焼立」に対し正反対の「水立」とし、水に縁のある地名として好ましい「やけだち」と呼ぶようになったといわれます。

大黒（だいこく）

大黒というと大黒様を思います。大黒様は大国主神と同一人物とされています。

大黒（大字篠塚字大黒）、特に邑楽中学校の南方、水田をへだてた台地上の北

側が旧石器時代から縄文時代・古墳時代にかけての遺跡とされています。ここには、古い時代から人間が生活していたことが分かります。

昔、この土地の人が畑を耕していると木彫りの大黒様が見つかったそうです。

その人は、一人で家に飾っておくのもつたいないと思ったのでしょうか、村人と相談したところ、縁起のよい福の神を掘り当てたというので、祠を建てて中に本尊様としてお祀りしたそうです。

時代の変化にともない、祠も移り変わりましたが、現在は第二十三区の公民館敷地に大国神社として祀られています。木造のご本尊様は最初に見つかったものかどうかは定かではありません。

大黒様のいるところ、というので「大黒」という地名になったそうです。



平成6年3月に町道幹線6号線拡幅のため、旧社地から現在地に遷座された大国神社

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集) あすへひとこと」より



あなたを
待ちわびる
(緑化センター)

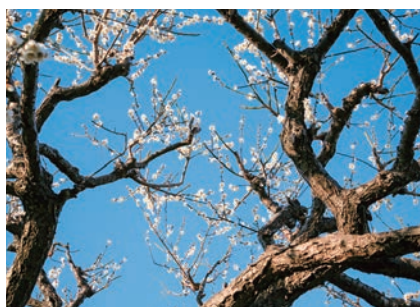


Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶花暦では、2月は梅ー高潔ー、3月は桃ーあなたに心を奪われたー、4月は桜ー精神美ー。それぞれ冬から春に移りゆく瞬間に色を添えてくれます。梅は梅干しなどの加工食品に、桃はおいしい果実に、花も実も楽しめます。桜は花だけで私たちを幸せな気分にしてくれます。桜は日本人の精神性の象徴かもしれません。▶梅干し入りのお弁当を広げて、缶詰の桃をデザートに、杯を傾け桜色に染まる... 今年はそんな花見をしてみませんか。▶さて、3月中旬に「平成26年度邑楽町くらしのカレンダー」をお配りする予定です。ご活用いただければ幸いです。▶また、4月から役場の機構が変わりますが、平成26年度もよろしく願います。(橋圭)



この広報誌は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。